東京都市大学塩尻高等学校　平成 28 年度　実施報告書

教育設計に関する分野

達成目標と具体的取り組み	達　成　状　況
1　平成 29 年度新コース設置に伴う教育課程の編成	○ 探究コース教育課程作成。 ○ 探究コース年間計画、評価基準、教育目標作成。
2　到達目標付きシラバスの作成と授業改善の実施。	○ 平成 28 年度シラバスは 4 月に作成。 ○ 授業改善の研修として「授業力養成講座」を実施。 ○ 授業アンケート報告を受け、各教科で研究授業を実施。 ○ LHR および総合的な学習の時間は、学年中心に週間計画を作成。
3　サイエンステクノロジーコースの実践的な授業展開	○ サイエンスリテラシーにて外部講師による講演を 7 回実施。 ○ 科学技術発表会を全校生徒対象に実施。（助言者：都市大、協力企業）
4　都市大グループでの学校間連携・交流。	○ 高大連携遠隔授業において、8 名が受講。 ○ 等々力中高の校長と教頭が教員研修に講師として講演。 ○ 野球部・吹奏楽・原動機部で生徒間交流を実施。
5　各種書類の校内管理の徹底	○ 成績処理・指導要録の作成。 ○ 調査書作成委員会を設置。組織的に調査書作成。
6　授業規律の徹底	○ 授業研究を合計 272 時間実施。
7　多様な外部評価･内部の評価制度の導入 (ｱ)現行実施の評価制度と外部評価の継続 (ｲ)授業アンケートおよび分析報告会 (ｳ)学校評議員会の実施	 (ｱ)新入生・保護者アンケートや地区 PTA(6 回実施)での意見より改善提案。雨カッパ購入指導等。 (ｲ)授業アンケートおよび報告会をそれぞれ 2 回実施。さらに学校独自のアンケートを実施し、授業づくりの改善に役立てた。 (ｳ)評議員会を 2 回実施し、出された意見を各部で検討、反映。
8　危機管理の徹底	○ 「平成 28 年度版学校安全計画」作成。 ○ 「平成 28 年度版危機管理マニュアル」作成。 ○ 防災訓練、救急救命講習会、性犯罪防止講話等を実施。

学力向上に関する分野

達成目標と具体的取り組み	達成状況
1 進路意識を高める 具体的に進路の道筋を指導し、生徒を励ます。	TMノートを活用。月に1回以上の生徒面談を実施。 ○ 担任面談に加え、必要な生徒に関して学力向上部が随時実施し、進学先と準備する教科学習について指導。
2 学力向上 目標：東京都市大学 10 名以上・国公立大学 8 名・他私立大学 80 名以上（日東駒専計 5 名以上を含む） ○ 特選クラスの教科担当者会議 ＰＤＣＡサイクルに基づいた集団及び個別学習指導を充実。	東京都市大学 8 名、国公立大学 5 名（筑波・高崎経済・宇都宮・前橋工科・群馬）、他私立大学 75 名の合格。 ○ 特選クラスの 5 教科担当者会議を開催。課題の検討・学習時間の確保・定着度確認（朝テストや模試の結果分析）を行い、学級単位及び個別学習指導について検討。一人ひとりの進学希望先に応じて、取り組む課題や重点教科を決めて指導。
○予備校講座や各種講座・合宿の運営、朝テストの充実、全国模試の実施。	○ 予備校講座や各種講座（サテライト、E-learning、放課後の理科・社会の講座）・合宿の運営、朝テストの運営(英語・数学・国語)、全国模試を実施。
○全体指導体制の充実 ① 指導体制の充実 ② 学習支援センターの充実 個別指導、サテライト授業、E-learning、本校職員による講座、授業課題、補助プリントの設置、学習チューターの充実。ｉパッド等の電子機器を使い、サテライト授業を実施。	① 朝テストを実施し、意識付けを高めて学習時間が増加。予備校講座を開講。 ② 個別指導：必要な時に随時実施。 E-learning：6 科目実施。本校職員講座：社会・理科にて実施。Step by Step の自習プリント：3 教科で実施。学習チューターの増員。サテライト授業：地理・日本史・物理を実施。ｉパッド授業活用：ロイロノートの導入について検討。 学習支援センター利用者は、平均 30～50 名/日。
③ 学習内容の精選 習熟度別授業、教科会による授業づくり、ロードマップの修正、授業進度の見直し。	③ 習熟度授業： 1 年生数学については、2 講座の習熟度授業に変更。 教科会では、指導内容を検討し、課題の出し方、取り組み状況と理解度の点検を行って、学習量の確保。ロードマップを再度見直し、 1 年間の授業計画を再構築。
④ わかる授業を研究し、生徒に成就感のある学習をさせる。(「学び直し」を含む)	④ わかる授業を目標に、授業改善を行って、以下の講座を開講した。 各学年で国語・数学・英語の講座を Advanced と Basic に分けて開講
⑤ 学習量の増加 毎日の課題、朝テストで定着度確認	⑤ 週 1 回の 5 教科担当者会議において生徒の学習量のチェックを行い、指導を実施。週ごとの平

⑥ センター試験受験対策 センター特編授業を 10 月からセンター直前まで実施。	均勉強時間の推移を確認し指導。 ⑥ ３年特別選抜類型では、10 月より特別編成授業を実施。11 月より放課後に文理進学類型の生徒を対象にセンター試験対策講座を開講。センター試験受験者数 94 名
３.就職内定率１００％ 就職指導体制の充実として、次を実施する。 ① 就職支援員の設置の継続 ② 企業訪問 ③ SPI 講座の開講 ④ 企業見学・インターンシップ ○キャリアセンターの設立とキャリア教育の充実 都市大との連携を強化し、県内企業やハローワーク及び商工会と協力協同を行い、進学したすべての卒業生に情報を提供できるキャリアセンターの設立を行う。キャリア教育を充実させ、生徒の意識改革を行う。普通科の体系的な資格取得のシステムを検討。	就職希望者に対しては 100%内定。 ①就職支援員の設置を継続。 ②企業訪問を 5 月と 6 月に約 30 社実施。 ③6 月～7 月に実施。受講者 50 名。 ④保育、介護・看護系への体験実習を 39 名実施。 本校出身の学卒者への県内就職希望者への対応として、「ヤングハローワーク松本」、「塩尻市役所」、「塩尻商工会議所」、「信州大学地域連携研究員」に協力の依頼をした。 資格取得についての講座を６月と７月に実施。マイクロソフトオフィス検定、パソコン検定、医療事務基礎検定試験、高齢者福祉基礎検定試験、ビジネスマナー基礎検定試験、販売接客基礎検定試験、危険物取扱者資格試験など。
４.グローバル教育（海外研修を含む国際力の育成） ○「英会話講座」「イングリッシュシャワー」「イングリッシュキャンプ」「セブ島語学研修」を改善し、「留学生との交流」を実施する。TOEIC Bridge と G-TEC の受験者数を増加させる。英会話指導の充実。	「イングリッシュシャワー」は週１回、「イングリッシュキャンプ」は 10 月 7 日～9 日に、「セブ島語学研修」は 3 月 12 日～25 日に実施。TOEIC Bridge 受験。 オンライン英会話を英語クラブで実施し、来年度の実施方法を検討。

生徒活動に関する分野

達成目標と具体的取り組み	達　成　状　況
1　充実した特別活動を通じて、生徒の自主性・自発性を伸ばす。 ①生徒会活動の活性化 新組織の発足と充実した活動 地域ボランティア活動	① 生徒会の新組織を発足させ、各委員会が主体となり活動を展開する。月１回の定例会は予定通り実施できない月があった。 ○ 田川のシバサクラの植栽活動を春秋の２回実施した。 ○ 地域ボランティア活動として、「通学路花いっぱい運動」を実施。公園の歩道に花を移植し全クラスで水やり草取りを継続的に行い、地域住民に感謝されている。エコキャップは、環境衛生委員会主導で実施。通学路清掃はクラス単位で時期を決めて実施。
②学校行事の活性化 各種行事を開催し、生徒の主体的取り組みで達成感と誇りを育成する。パネルディスカッションを実施し、学年やクラスでの文化活動を活性化する。	② 文化祭では研究テーマを設定。学年、クラス毎にその成果を発表。３年はステージでのパネルディスカッション、１，２年はパワーポイントでの発表。生徒満足度は 90%。 ○ 体育祭は成功を収め生徒の満足度も高い。ＰＴＡと連携協力し、豚汁の炊き出しを実施した。
③部活動の活性化 部活動加入率目標を 80%以上、文化系の部・同好会を充実させる。特に女子の加入率を 70%以上にする。都市大グループ内の学校間連携として、生徒会及び部活動の生徒間交流を実施する。	③ １年男子のクラブ加入率は 77.8%で低下、１年女子 66.1%。加入率は全体で 65.9%。クラブ活動より学習に力を入れようとする生徒が増えている。 ○ 全国大会出場数は 2 団体（女子バレー、女子ソフトテニス）。北信越は 4 団体（サッカー、女子バレー、女子ソフトテニス、男子ソフトテニス）。 ○ 県大会は 6 団体（サッカー、女子バレー、野球、ラグビー、男子ソフトテニス、女子ソフトテニス）。 ○ 文化部では、英会話・茶道、ボランティア、料理、書道、吹奏楽部などの女子主体の活動が盛ん。 チアは、第 4 回全日本チアダンス選手権大会エキシビジョン部門　奨励賞　USA リージョナル長野県大会 1 位 原動機は、HONDA エコマイレッジチャレンジ 2016 第 8 回もてぎ大会　29 台中 7 位。本田宗一郎 HONDA エコマイレッジチャレンジ 2016 第 36 回全国大会 136 台中 11 位 ○ 都市大グループ内の学校間連携として、生徒会は文化祭での交流、野球部・吹奏楽・原動機で交流。

2　規律ある基本的生活態度と習慣を養う。自他共の人権を尊重する態度を育む。	
①制服着用・整容指導	① 日常の身だしなみ指導の取り組みにより、改善がみられた。 ○ 定期的な身だしなみ検査（月 1 回）と、朝の通学時に塩尻駅（ほぼ毎日）と校門前（月 15 日）列車指導（月 6 回）の指導を実施。各指導とも指導件数は少ないが、日々の注意で改善。
②挨拶の習慣化、授業規律の改善と向上	② 授業規律については、授業で教科担任がチェックした結果を学年会や職員会で情報共有し、改善に向けて個別の指導面談を実施。
③人権意識の向上	③ 学校長より創立記念日に、五島慶太翁の講話を実施。 ○ 11 月に人権映画を実施。感想や意見発表をクラス単位で行い、人権意識を啓発することが出来た。 ○ 教員の生徒に対する接し方や生徒同士の関わり方を考える機会を増やし人権意識の向上に努めた。 ○ いじめに関するアンケート等実施。 ○ いじめ等の対応は、特別委員会をつくり学年を超えた指導。